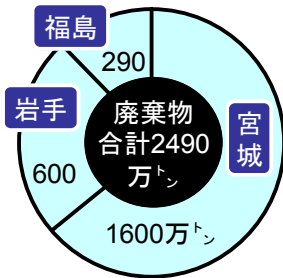


ガレキを利用した袋型根固工等について

ガレキの現状



- ・日本の1年間の一般ゴミ排出量(4,625万ト)の1/2を超える膨大なガレキ(2,490万ト)が発生。
- ・焼却施設・処分場の被災や集積場不足により処理が非常に困難。
- ・沿岸などの漁場へ流出したガレキ撤去も遅れる恐れ。
⇒ガレキ処理の遅れは被災地の復興を遅らせる要因に！

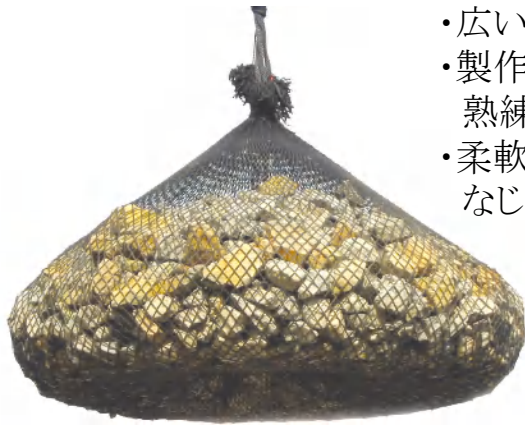
廃棄物合計トには漁船(18,600隻)や自動車等は含まれず、実際はさらに膨大。

ガレキの利活用

・環境省ではコンクリート殻は建設資材、木くずは再生建材等への有効活用を推奨する方針。

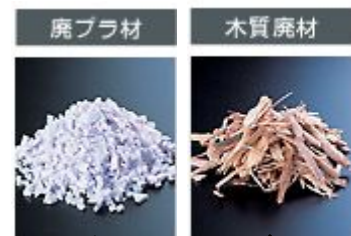
⇒コンクリート殻などの建材利用

袋型根固工(フィルターユニットS型) 8t・6t・4t型



- ・広い製作ヤードは不要。
- ・製作・設置ともに容易で熟練工が不要。
- ・柔軟な構造で設置面とのなじみがよく安定。
- ・磯根資源漁場、砂止堤、仮設防潮堤などに活用可能。

⇒廃材・流木などの利活用 再生建材(リバーズウッド)



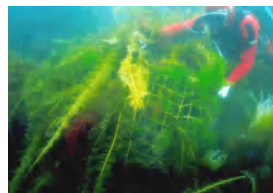
- ・廃木材・廃プラを主原料とした100%再生建材。
- ・廃木材受入基準(異物がないこと、含水率15%以下等)を満たせば受入／新設デッキ材等に再生可能。



阪神大震災を始め、数多くの災害復旧工事の採用実績あり。



市街地における仮設護岸としての使用例。



藻場造成試験では多数のマコンブの生育が確認。(設置6ヶ月後)

今後の漁場回復に向けて

- ・地震による地盤沈下で流況が変化(藻場の波当たり静穏化)→ウニの摂餌行動が活発化→磯焼けが進行。
- ・磯焼け対策として、袋型根固工による海底地盤の嵩上げや、三陸海域の生物的特性を踏まえたブロックの利用が効果的。
- ・コンブ類は稜線(角部)に着生しやすいという特徴あり。
⇒稜線(角部)の長いブロックがコンブ類の着生に有効



稜線(角部)はコンブ類の着生場所になります。また、多くの空隙は海洋生物の多様な生息環境を提供します。